Ⅳ－２

授業づくり

(1) 授業改善の必要性

各教科等の指導に当たっては、①知識及び技能が習得されるようにすること、②思考力、判断力、表現力等を育成すること、③学びに向かう力、人間性等を涵養することが偏りなく実現されるように、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことが大切です。

なぜ授業改善が必要なのですか？

学習指導要領で大切にされている「育成を目指す資質・能力」を、授業を通して児童生徒に育むためです。

(2) 授業改善のポイント

教科等の特質を踏まえ、具体的な学習内容や児童生徒の状況等に応じて、「主体的・対話的で深い学び」の視点の具体的な内容を手掛かりに、質の高い学びを実現し、児童生徒が学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることが求められています。

「主体的・対話的で深い学び」とは

① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。

② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。

③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

どのように授業改善をすれば良いのですか？

「主体的・対話的で深い学び」を視点として、児童生徒が「何ができるようになるか」を大切にして授業づくりをします。

「主体的・対話的で深い学び」を実現している児童生徒の姿を具体的に想像し、それらの姿に結びつく手立てを検討しながら授業改善することが大切です。

（例）知的障がい特別支援学級　国語科

1　単元について

(1) **学年**：中学校第３学年　**単元名**：「お礼の手紙を書こう」

(2) **単元目標（抜粋）**

○　敬体と常体の違いに注意しながら、丁寧な言葉で書くことができる。　【知識及び技能】
○　漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことができる。　【知識及び技能】
○　相手を意識して、見聞きしたことや経験したことの中から書く内容を選び、伝えたいことを明確にすることができる。　【思考力、判断力、表現力等】
○　相手に知らせたい内容やお礼の気持ちをより良く伝えようとすることができる。　【学びに向かう力、人間性等】

2　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①　敬体と常体の違いが分かり、相手や目的に応じて、文末表現に気を付けて文を書い	①　「書くこと」において、自分が見聞きしたことや経験したことの中から相手に伝えたいことを選んでいる。	①　知らせたい内容や自分の気持ちなどが伝わるように、文章を工夫している。 ②　手紙やはがきといった通信文を書くことのよさに気付い

【単元構成のポイント】
・単元や題材等、内容や時間のまとまりを見通して、資質・能力を育成する場面を設定する。

【**主体的な学び**の視点（例）】
・見通しをもって学習に向かうために、児童生徒が実際に経験したことを題材として設定する。

3　単元計画

	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	○　単元の学習課題を確認する。 ○　社会見学の様子を振り返り、感謝の気持ちをお礼の手紙にまとめることを知る。	※　写真などを見ながら、見学の時の様子を想起できるようにする。 ※　見学メモや学習をまとめた掲示物、写真、見学先のリーフレットなど、手紙に書く内容を考えるための資料や、便せん、封筒などを準備する。	【主】 ・単元全体の見通しをもっている。
2 3 4 5 6	○　教科書の本文を確認し、お礼の手紙の文章構成について確認する。 ○　感謝の気持ちや分かったこと、気付いたことなど、書く内容について考える。 ○　作成中のお礼の手紙を交流する。	※　２種類のモデル文を提示し、基本的な形式を捉えられるようにする。 ※　２種類のモデル文の表現の特徴に注目させ、気付いたことや感じたこと、その理由を発表するよう促す。 ※　作成中のお礼の手紙について工夫した点を交流する中で、他者の表現に触れ、自分の伝えたいことが明確になっているかを確認するように促す。	【知・技】 ・季節の挨拶や本文、結びの挨拶など、手紙に書く順番や決まりを理解している。 【思】 ・相手に伝わるように書く内容の中心を明確にすることができている。 【主】
7 8	○　本単元で学んだことを振り返る。	※　文字の大きさに気を付け ※　思いや考えを伝えるための表現の工夫について、他の教科や日常生活でどのように活用できるかを問う。	・学んだことを生かす場面について考えている。

【**深い学び**の視点（例）】
・学習を振り返り、成果を活用する場や、新たな問いを発見する場を設ける。

【**対話的な学び**の視点（例）】
・自分の考えを修正したり深化させたりするために、多様な考えに触れる場を設ける。

「主体的・対話的で深い学び」は、授業の方法や技術の改善のみを意図するものではなく、児童生徒に育成を目指す資質・能力を育むための授業改善の視点です。
「主体的・対話的で深い学び」は、必ずしも１単位時間の授業の中で全てが実現されるものではありません。単元や題材など、内容やまとまりをどのように構成するかという授業のデザインを考えることが重要です。